

九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 No.392
2023(令和5)年6月1日(木)発行



■ **はらまち九条の会** は、戦争放棄の憲法9条を守り、永久に「戦争をしない国・日本」であることを願い、「鈴木安蔵の出身地の九条の会」を誇りに活動する自由な市民の会です。支持政党や宗教を問わず、何の拘束もなく、匿名でも入会できます。■ 結成は2005年12月。会員は南相馬市原町区を中心に364名。■ 会費は年千円。隔月で会報を発行しています。
◀本会のシール(デザイン:朝倉悠三さん) ■ご入会申し込みは事務局員へ!

本会の総会は約束では“年1回開会”ですが、コロナ禍のため2019年の「総会と若松丈太郎氏講演会」以来開会されず、4年ぶりの総会です。今年は「総会」と現在全国で話題になっている映画の「上映会」です。お誘い合わせてご出席ください。

2019年以來の総会 原発事故被災民としてみておきたい映画

はらまち九条の会 総会・映画「原発をとめた裁判長」上映会

○日時:6月18日(日)総会午後1時~2時・映画会2時20分~4時

○会場:南相馬市マルチメティアホール (原ノ町駅前・市民情報交流センター)

総会には、郵送の「総会資料」をお持ちください。

映画会は<入場無料>です。知人や友人と自由にご入場ください。



映画 小原浩靖監督・2022年・上映時間92分・カラー
『原発をとめた裁判長 そして原発をとめる農家たち』

「我が国の原発の耐震性は極めて低い。」
「環境問題を原子力発電所の運転継続の根拠とすることは、甚だしい筋違いである。」

福井地方裁判所民事第2部裁判長裁判官 樋口英明



2014年5月21日、関西電力大飯原発の運転差し止めの判決を下した樋口英明・福井地裁元裁判長は定年退職後、日本の全ての原発に共通する危険性を説く活動を始めた。3.11原発事故後ドイツは全原発停止を決断する一方で、日本の岸田政権は原発の再稼働や60年延長をめざす。私たち福島原発事故被災民はどう考え行動すればいいのか。判決と二本松市の農民の活動を描く。

○会場での販売:『映画 原発をとめた裁判長 パンフレット』800円

『日本国憲法と鈴木安蔵』立正大学名誉教授金子勝著1,100円

(5月3日「鈴木安蔵を讃える会」主催の金子勝先生講演会でも頒布し好評でした。憲法学者鈴木安蔵を知るため分りやすい絶好の書です)

5月3日憲法記念日、「はらまち九条の会」2つの活動

①全市全新聞に

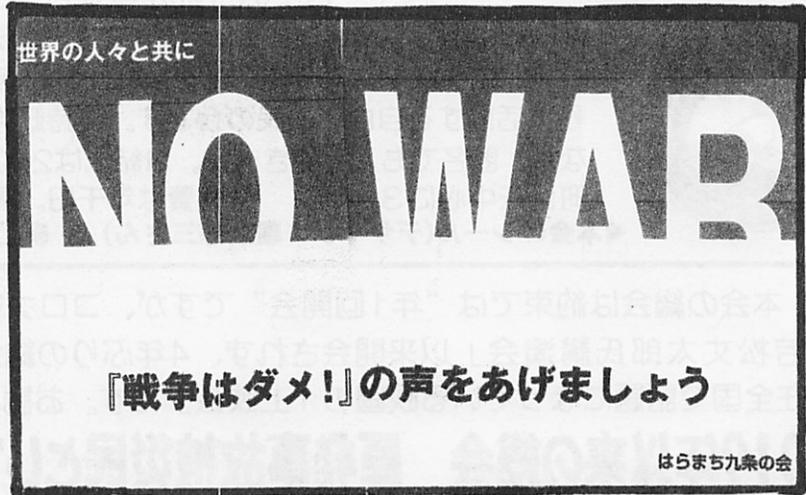
チラシを折り込む

○今年も南相馬市の全新聞に、<右>の「9条を守ろうの意見広告チラシ」約1万7千枚を折り込みました。○この活動は2008年5月が最初で、2013年5月からは毎年行ってきたので、今年で12年（回）目を数えます。

○今年もチラシの大きさはB4判。表面はウクライナの国旗に「NO WAR」と反戦を表現。裏面は78年前の昭和20年に原町もアメリカ軍機に空襲され、犠牲者は13名。そんな戦争の反省から「平和憲法」が生まれたと訴えています。

②全国紙「改憲反対」の意見広告に協賛

○活動の2つ目は、2003年開始の「新聞紙上のデモ」とよばれる『朝日新聞・毎日新聞・読売新聞』の全国紙の意見広告に協賛し、**はらまち九条の会**の名を公表。会員さんの名もたくさん見つけることができます。



意見広告 **戦争回避が政治の役割!** **大軍拡・改憲に反対**

【福島県】青柳靖美 上石好次 阿部一子 安部智彦 五十嵐和典
菅原洋子 鈴木浪子 高野敬子 高橋純子 葛田章臣 武田慶子
吉村淳 若松香子 渡辺恵子 渡部幸一 田村孝男 丹治千代子
伊豆田博 板橋俊子 井上光正 井上由美 石黒寛 石黒素枝
鉄道退職者の会会津支部 仲野雅彦 中村町子 池田芳江
大宮みゆき 岡田光生 押部慎一 勝治美喜子 菊地昌美 衣山武秀
根本正子 橋本禎子 花見潤子 濱名弘美 堀内一成 松村慎一
木村肇二郎 木村久夫 小林和之 坂本金男 佐藤修二 佐藤節男
武藤十三子 武藤昌之 武藤類子 村上俊雄 目黒セツ子 目黒隆弥
加藤清和 圭澤弘子 菅野顯光 菅野家弘
早川歌 是らまち九条の会 番場恵子
菅野正勝 菊地多喜子
番場正宏 平田慶繁 平田允子
佐藤直樹 佐藤益男 佐藤豊
山崎健一 山田香三 山田俊子
志賀勝明 庄司郁子
郵政ユニオン郡山支部

ENFORCE ARTICLE 9 九条実現

“南相馬市小高区の誇り”として 鈴木安蔵を紹介

▼憲法施行76年の憲法記念日・5月3日付『福島民報』1面コラム「あぶくま抄」

南相馬市小高区にとつて、土地の誇りと云える。英才と縁を結ぶ。文壇に名を残す島尾敏雄、埴谷雄高…。日本国憲法の間接的起草者とされる鈴木安蔵もその一人だ。

119年前、まちなかに生を受けた▼進学した旧制相馬中では、いじめが横行していた。正義感が極めて強かったのだろう。教師にかけ合い、問題を収めた。1923（大正12）年の関東大震災発生後、失業して食うに困る人があふれた。何とかならぬか。哲学に答えを求め、京都帝国大学の門をたたいた。観念論に失望し、経済に道を変え、マルクス主義に傾倒したとされる▼波乱の人生だ。治安維持法違反で逮捕される。獄中で転機が訪れた。差し入れの本をきっかけに憲法研究の必要性を感じた。市井に戻り、仲間と憲法草案を練り上げる。画期的な国民主権の考え方がGHQの目に留まった。わが福島の先人の英知が、世界に知られる103条の屋台骨となった▼憲法記念日のきょう3日、生家が公開される。震災で壊れかけたが、地元有志が資金を集め、保存にこぎ着けた。草案には平和思想も盛り込まれていた。在野の憲法学者の精神は傷みも古びもせず、戦雲が漂う今の世に一段と輝きを増す。▲2023・5・3▼

あぶくま抄